

中国語の語彙について
——新語・流行語をめぐって——

瀬戸口 勲

東京国際大学論叢 人文・社会学研究 第9号 抜刷
2024年（令和6年）3月20日

中国語の語彙について
——新語・流行語をめぐる——

瀬戸口 勲

Vocabulary in the Chinese Language
— in Relation to Neologisms and Buzzwords —

SETOGUCHI, Isao

Abstract

Language is closely related to the systems, politics, ideologies, and other aspects of a society and develops under their influence. The Chinese society underwent a significant change in terms of its language after China introduced market economics under the reforms and open-door policies instituted from 1979. That change entailed the creation of huge volumes of “neologisms.”

This study considers neologisms as newly coined words and phrases and discusses “neologisms” that found their place in people’s lives, predominantly in spoken language, over the passage of time and the buzzwords that were created among them from the 1990s to about 2010. It organizes, by year, the Neologism (Buzzword) Dictionary—a representative of the neologism dictionaries published throughout China in competition with each other at the time—and presents the characteristic features of each year’s dictionaries. Two of these dictionaries are compared in concrete detail to confirm how neologisms were recorded. Furthermore, this study reveals several issues through the various dictionaries and considers them from the perspective of Chinese language education.

Keywords: Neologisms, Buzzwords, Vocabulary in the Chinese Language, Spoken Language, Chinese Society, Chinese language education

要 旨

言語は社会の制度や政治・思想などと深い関わりがあり、その影響を受けて発展する。中国では1979年以降に実施した改革開放路線の下で市場経済が導入されると、言語の面でも中国社会に大きな変化が生じた。それが大量の「新語」の誕生である。

小論では新語を新しく生まれた語、言葉という意味でとらえ、時間の経過の中で人々の生活の中から主として口頭語として定着した「新語」とその中から生まれた流行語を1990年代から2010年辺り迄を取り上げる。当時競って中国全土にわたり発行された新語辞典の中から代表的な『新語（流行語）辞典』を年代順に整理して、それぞれの特色を提示する。その中の二書については具体的に比較作業を行ない、新語の収録状況を確認する。また、各種辞書を通していくつかの問題点を浮き彫りにし、中国語教育の立場から考察する。

キーワード：①新語、②流行語、③口頭語、④中国語の語彙、⑤中国社会、⑥中国語教育

目 次

1. はじめに
2. 新語・流行語について
 - 2.1 80年以降の新語・流行語
 - 2.2 『中国新語・流行語小辞典』と『現代漢語詞典（第7版）』の比較
3. 『大陸流行詞語800條』について
4. おわりに

1. はじめに

瀬戸口（2022）では、“普通话”（標準語）の中で北京語の語彙がどの程度採用され、定着しているかをテーマの中心とし、その扱われ方について図表化して整理分析を行った論文を発表した。その結果、『現代漢語詞典（第7版）』（2016）の中で北京語の語彙の採用は減少傾向にあるものの、その多くが口語の中に組み入れられていることが明らかになった。同時に、1978年、改革開放政策の実施により、中国の社会も著しい変化を遂げた。語彙においても、必然的に大きな変化が生じている。本論文では、1980年から2000年までを範囲として新語・流行語に焦点を当て、中国全土で広がりを見せた代表的な語彙を取り上げ、(A) 香港・広州から流行した語、(B) 経済的な影響を受け流行した語に分類してまとめた。

今回は前掲論文の内容を踏まえ、1980年後半以降、中国各地で続々と発行された新語・流行語関連の辞書を紹介し、各辞書の特徴と編集上のいくつかの問題点を指摘したい。また、1980年代以降より、日常生活の中に浸透し、既に常用語として認知され、定着している語について、中国語教育の立場から「新語・流行語」について検討し、言語研究分野における「新語・流行語」についても考察する。

2. 新語・流行語について

現代中国語では「新語」のことを“新词”とか“新词语”という言い方をする。もともと“词语”には単語やフレーズという意味も含まれているので、“新词”より“新词语”の方が幅広い意味を持つが、両者は同様の意味で使用されていることが多い。「新語」とは1980年以降、改革開放政策を実施してから新しく生まれた語ばかりを指しているのではない。1949年、中華人民共和国成立後、その時期その時期の社会的な背景を反映して新語は誕生している。

新語の激増について『中国語新語辞典（三訂版）』（吳侃編著、2000）では、①中国革命勝利及び一連の変化、②文化大革命、③改革・開放政策という三つのピーク（変革期）に分類している。小論においても、同書のこの三つの分類を基に新語について検証する。

①と②の時期に生まれた語が時間の経過及び社会の変化とともに、人々の生活に「新語」として、すっかり定着しているものもあるし、人々に忘れ去られ、死語になったものも少なくない。

小論では上記③を取り扱うが、ここ数年来の新語の増え方には、想像をはるかに超えるものがある。その上、これからも社会の経済及び科学技術の発展にそって、年々増加の一途をたどることは明らかである。そこで、小論では新語・流行語を1980年代後半から2010年頃までの範囲に限定する。

①の文化大革命時の新語や流行語は、当時の世相に合致した政治用語が多く、政府主導で作られた語であることが分かる。例えば、“文革”（文化大革命の略、プロレタリア文化大革命），“无产阶级”（プロレタリアート），“挨斗”（つるし上げられること），“整人”（人を批判したり、陥れたりすること），“紅衛兵”（紅衛兵、文革中に造られた組織），“臭老九”（九番目の臭いやつ、文革中の知識人に対する蔑称），“走資派”（資本主義の道を歩む実権派の略）などがあげられる。

『新華新詞語詞典（2003年版）』（商務印書館辞書研究中心編）には、辞書の編纂目的として、以下のように記している。

①改革開放政策が実施され、中国社会に大きな変化が起こり、それに伴ない、新事物や新概念が次々と出現、②社会生活の変化を受けて、新語が増え続けて毎年1000語が誕生していること、③それらの新語のほとんどが新聞や雑誌などに頻繁に現れるようになり、一般の辞典では収録されていないことなどを挙げている。

1978年、鄧小平の登場により「改革開放」路線に政策が転換され、80年代から市場経済が導入されると、これまでと異なり新語や流行語は政府主導ではなく、民間から作り出されたものが増えてきた。それが徐々に社会全体に広まり、人々のコミュニケーションだけの利用にとどまらず、新聞、雑誌、テレビ等の公共の報道機関等でも使用され、より一層拡大発展して来たのである。

新語の中から生まれた流行語は時間が経過しないと断定できない側面もあるが、新語が氾濫している時代でも流行語は比較的長く残っていることが少なくない。

「流行語」という語彙が『現代漢語詞典』¹の中に見出し語として採用されたのは、第5版からであり、比較的新しい語彙と言える。日本で出版されている『中日辞典（第3版）』（2016）では、まだ「流行語」は収録されていない。今のところ、新語と流行語を明確に区分することは難しい点も存在することから、多くの場合、新語・流行語を一つのカテゴリーとして整理される²。

小論もこの考え方にそって、新語・流行語を明確に区別してまとめるのではなく、それらの語が日常生活の中に根付き、定着しているものを整理分析する。

1990年代、流行語として、コミュニケーションの場や新聞（北京晩報など地方の新聞）、雑誌な

どで目立って使用された語には次のようなものがある。(例語の多くは、北京語言学院出版社発行の『1991汉语新词语』及び『1992汉语新词语』による³。

①炒, ②玩, ③火, ④侃, ⑤练, ⑥宰(宰客, 宰人), ⑦倒(倒爷, 洋倒爷, 博倒, 学倒, 公倒, 私倒, 科技倒爷, 国际倒爷), ⑧潮(华裔潮, 民工潮, 黑潮), ⑨族(擦车族, 擦鞋族, 卖脑族, 哈日族), ⑩热(出国热, 外语热, 计算机热, 招牌热), ⑪洋(洋倒爷, 洋食), ⑫软, 硬(软件, 硬件), ⑬假(假药, 假酒, 假商标), ⑭大王(服装大王, 帽子大王), ⑮大款, ⑯大腕, ⑰贩子(二贩子, 票贩子, 人贩子, 信息贩子), ⑱消费(投资消费, 劳务消费, 医疗消费), ⑲下海(下海-经商), ⑳入关, ㉑打的(打面的), ㉒走穴(明星走穴), ㉓打假(打击假药·打击假商标), ㉔扫黄(扫黄源, 扫黄办), ㉕回扣, ㉖公关(公关小姐, 公关部, 公关学), ㉗股票(股海, 股民, 股东, 股市), ㉘彩票(福利彩票, 体育彩票), ㉙甜活(买卖), ㉚名优(省优, 部优, 国优), ㉛新大件(房子, 小汽车, 电话)

以上, 31語の中で『現代漢語詞典(第7版)』(2016)⁴に収録されている語は, ①炒, ③火, ④侃, ⑥宰, ⑨族, ⑩熱, ⑫軟, 硬, ⑲下海, ㉑打的, ㉓打假, ㉔掃黃, ㉖公關の計12語である。未収録の語は, ②玩, ⑤练, ⑦倒, ⑧潮, ⑪洋, (⑫軟, 硬, ⑬假, ⑭大王, ⑮大款, ⑰贩子, ⑱消費, ㉒打假, ㉔掃黃, ㉗股票, ㉙甜活)の計15語である。

また, ⑬假, ⑭大王, ⑮大款, ⑱消費, ⑳入关, ㉗股票などは, すでに日常生活に定着しているため, 辞書の中にあえて収録する必要がなかったと推測される。

2.1 80年以降の新語・流行語

改革開放政策の下で中国社会に新語の激増現象が起きたことは前項でも指摘したが, ここでは, 当時新語に関する辞書が全国各地で陸続として出版されている状況を踏まえ, 以下にその代表的な辞書をいくつか紹介する(出版発行順による)。

ほぼ同時期に全国各地で発行された各新語辞典の特徴を説明し, 整理することにより, 学習者が編集上の差異を理解することになり, それぞれの調査目的に合った新語辞典の選択が可能となる。

①『汉语新词词典』(刘庆隆等編 上海辞书出版社, 1986年)

言語学者として著名である呂叔湘⁵氏の序が記されている。本書は中国語の新語が1654項目収められている。当時の新語(“巴士”一英語Busの音訳。“彩电”一彩色电视の略)だけでなく, “臭老九”, “紅衛兵”, “四人幫”などの文革時代の語も採用されている。

②『新词新语词典』(李行建等主編 语文出版社, 1989年)

1949年から1989年代後半に至るまで, 新語5300余を収集している中型の新語辞典である。単に当時の新語を簡明に紹介しているだけでなく, 必要に応じて例を提示して, 説明を加えた実用的価値の高い工具書である。本書では, 「新しく作られ, 新しい概念を表す語, フレーズや語句, または古い語も新しい意味を有している語」として新語を定義づけている。

③『常用新词语词典』(张寿康主編 经济日报出版社, 1991年)

20余人の共同編集による辞書である。1949年以降に現われ使用されている新語を収めている。日常生活の中で多く使用されている語を収集しているが, その一部に, ここ数年来, 新語には属していないが, 広く採用されている外来語も収録したとの説明がある。表紙をめくると, 著名な周祖谟氏の直筆のコメントが寄せられている⁶。

この短い推薦文からも, 当時, 新語が著しく増加し, 工具書の必要性が急務であったことを伺い知ることができる。

④『新词语词典』（北京市语言学会編 人民邮电出版社，1993年）

“新词语”として文化大革命時の一部の語彙も収録されているが、改革開放政策後の新語を極力取り入れている。「北京市語言学会」は主に大学や教育機関に従事している教員や研究者で組織されている学会である。編者は新語が氾濫している今日、多数の外国人の中国語研究者や中国語学習者に適切な工具書を提供しないと、教学・研究の両面で困難を招くことになり、新語辞典の出版は現状において、最も必要であると前言で指摘している。

⑤『汉语新语汇词典』（郭熙主编 江苏教育出版社，1993年）

大陸（中国大陸は以降「大陸」と略称）ばかりでなく、台湾・香港地域の新語を積極的に収集して編んだ工具書である。後方に漢語拼音方案、大陸・香港・台湾における科学技術用語の対照表が付されている。

⑥『中国新語流行語辞典』（張一帆・小島朋之 日中通信社，1995年）

計149個の新語・流行語を収集した本書は、中国文の説明と日本語訳が付されている。更に、例文の大部分を新聞から引用しており、ところどころに関連のある写真が掲載されて、中国語の新聞や雑誌の読解に役立つ一冊である。また、監修者が最新の新語や流行語を網羅しており、中国語の初心者はもちろんのこと、ビジネスにも有用な参考書であると推奨している。

⑦『市場經濟下の最新中国新語辞典』（陳岩編 北九州中国書店，1995年）

収集した語について、特に最近2～3年来流行している経済活動に関係のある新語を主としている。その範囲として、(1) 経済活動の新しい内容を表すもの、(2) 古い言葉の復活、(3) 流行語、この他、一部のよく使われている経済、法律用語も収録した。

⑧『中国流行新词语』（欧阳因编 中国人民大学出版社，2000年）

2000項目の新語を収集、英語、ピンイン、注音字母と発音表記が付されているばかりでなく、中国語の例文にも英訳が施されている点が他の書物と大きく異なっている。著者は英語で説明することにより、国内外のみならず、香港・台湾を含めた利用者に対して手軽で親しみやすい工具書の提供を目的として編纂している。

⑨『中国語新語辞典 三訂版』（金丸邦三監修 吴侃編著 同学社，2000年）

見出し語数計6076語（内、本文5710語、付録366語）を収録している。収録の範囲を1978年以來の中国の主な全国紙とし、新語の基準を『現代漢語詞典』（1985年）に採用されてないものを新語として扱おうとしている。第4版、第5版と版を重ね、第5版は見出し語数計9012語（内、本文7967語、付録1045語）が収録されており、収録語彙数も大幅に増加している。

⑩『汉语新词新语年編（1997-2000）』（宋子然主編 四川人民出版社，2002年）

1997年から2000年に生まれた新語と新しい意味で使用されている語の合計700を収録している。本書は単に新語だけの解釈のみならず、例文を提示し、編者自身の見解を加えている。

⑪『新华新词语词典 2003年版』（商务印书馆辞书研究中心編 商务印书馆，2003年）

1990年以降に社会生活の中で現れた新語、特に情報、財経、環境保護、医薬、体育、軍事、法律、教育、科学技術の分野における新語を計2200語とそれに関連する語を4000語収録している。この辞書の最大の特長は、当時の新聞や小説、雑誌から新語・流行語を抽出している点とその項目に関連する語をまとめて整理していることである。例えば、“的士（出租汽车）”の項目には、語の説明や実例の他に、“的哥”、“的姐”、“的票”、“的星”、“的爷”、“出租车”と関連語を並べている。

“族”も同様に関連語として“飘族”、“漂族”、“背包族”、“本本族”、“波波族”、“持卡族”、“打工族”、“工薪族”、“哈狗族”、“哈韩族”、“哈日族”、“海归族”、“绿卡族”、“买车族”、“上班族”、“有车族”、“月票族”、“追星族”というように、学習者を含む読者にとって便利で、知識の広が

りも提供する構成になっている。また、新語項目に英訳が付され、関連するイラストがいくつかあり、編集にも工夫が見られる。

⑫『汉语新词新语年编(1997-2000)』(宋子然主编 四川人民出版社, 2002年)

1997年から2000年に生まれた新語と新しい意味で使用されている語の合計700を収録している。本書は単に新語だけの解釈のみならず、例文を提示し、編者自身の見解や原文の注釈に丁寧な説明を加えている。これまで出版されている辞書と異なる点は年代によって新語を提示していること、また新語の年代については、語彙史研究の面において極めて重要であるという認識の上で新語の選択している点などは、辞書の編纂に一石を投じていると思われる。

⑬『中国新語・流行語小辞典』(郭雅坤・内藤達志 明石書店, 2010年)

一般辞書には載っていない新語・流行語を約200語収集している。それらの語を通して、中国の世相が理解できるように丁寧な説明が付されている。

以上13冊の各辞書の中で、⑥『中国新語流行語辞典』、⑦『市場経済下の最新中国新語辞典』、⑨『中国語新語辞典』、⑬『中国新語・流行語小辞典』は日本国内で出版されている。

中国において社会の大きな変化は、新語・流行語が増え続け、それが暮らしの中で定着してくると「新語」をまとめた辞書の出版の機運が社会全体の中で自然に高まってきた。1990年代は言語研究に従事している専門家の間でもその必要性が強まった。このことが上記に示した辞書の出版が相継いだ一つの要因だと考えられる。

辞書の編纂は、一般的には単著での出版は数少なく、多くの場合、編集グループを組織したり、関係者から原稿を募ったりして、各分野における新語の収集から作業が開始されることになる。当然のことながら、人々が日常よく使用している口頭語にも注意を払う必要があるが、それら全てを新語辞書に収録することは不可能である。したがって編者の人選、地域の差(方言の影響を受けやすい広州、香港など)によっては、新語の選択の面において、若干の違いが生じることは否めない。しかしながら、全体を通して言えることは、収録された語には、政治用語が多い感はあるが、新語・流行語として、全国的に認知度が高い語をピックアップし、収録している。上記提示した各辞書については以下の4点に整理することができる。

- 1) 中国人の研究者、教育に従事している人達の手で編纂されている。
- 2) 大半の辞書が新語として収録しているのは1949年の中華人民共和国成立以降の語が多い。誕生区分を明確にし、編集することができれば、利用者にとって必要な項目を効率よく調べることができる。
- 3) 中国語の「新語」の収集には日本人だけでは無理な面がある。新語は当時の世相を反映する語が広く採用されるので、中国の社会や文化に関して正確な知識を持っている中国人と日本人の共同編集が必要である。
- 4) 1990年後半からの新語辞典は、それ以前のものとは異なり、編纂方針及び目的がより明確に示され、編集方法にも計画性と独創性が見られる。

以下に上記⑬の『中国新語・流行語小辞典』に掲載された新語・流行語が『現代漢語詞典(第7版)』(2016)の中で、どれくらい採用されているかを調査する。⑬を比較調査の対象としたのは、(1)日本人学習者の立場から中国語の新語・流行語を通して中国の社会が理解しやすいように編集され、項目の選定が適切であること。(2)共著者の二人(郭雅坤・内藤達志)は、各々が現地(郭は日本・内藤は中国)に滞在した経験の持ち主であるため、その国の社会や文化に通じていること。(3)両氏は、かつて中国情報紙の記者兼編集者としての経験を有していることから、中国の社会を熟知していること。(4)新語・流行語の項目別に解説が丁寧である。

以上、四点の理由からである。

『中国新語・流行語小辞典』は計11章から構成されている⁷。

- 第1章 格差広がる中国社会の光と影 (1～13)
- 第2章 さまよえる就職・住宅難民 (14～24)
- 第3章 新時代のさまざまな愛のかたち (25～45)
- 第4章 中国社会の闇と病巣 (46～65)
- 第5章 ITの進化と酒盃 (66～88)
- 第6章 進む環境汚染, 高まるエコ意識 (89～101)
- 第7章 新時代, 新ビジネスの表と裏 (102～122)
- 第8章 過熱する投資ブームの功罪 (123～127)
- 第9章 高齢化社会と若者文化のあれこれ (128～143)
- 第10章 観光・レジャー大国となった中国 (144～151)
- 第11章 新しいライフスタイルと文化 (152～172)

2.2 『中国新語・流行語小辞典』と『現代漢語詞典(第7版)』の比較

ここでは、『中国新語・流行語小辞典』と最新の現代中国語の規範である『現代漢語詞典(第7版)』との比較を実施して、『中国新語・流行語小辞典』の新語・流行語がどのくらい収録されているかを調べる。

表1 『中国新語・流行語小辞典』と『現代漢語詞典』の比較表

項目	中国新語・流行語小辞典	現代漢語詞典 第7版
1	蚊族 高学歴のワーキングプア	○
2	富二代 成金二世	×
3	留守人口 出稼ぎ者の留守家族	×
4	流动人口 地方出身の出稼ぎ労働者	○
5	蜗居 ウサギ小屋	○
6	家电下乡 農村部の家電販売促進キャンペーン	× “家電” 有り
7	富翁 借金してまでも派手にふるまう人	×
8	白骨精 エリート女性	○ 意味が異なる。
9	低保 社会最低生活保障	×
10	辣奢族 熱狂的に高級ブランドを追い求める人	×
11	灰領 グレーカラー	○
12	炫富 富をひけらかす	○

13	两免一补 義務教育における貧困家庭に対する補助政策	×
14	房奴 住宅ローン返済に苦しむ人々	×
15	炒房 不動産の転売	○
16	合租族 ルームシェアをする人々	× “合租” 有り
17	洋漂族 外国人労働者	×
18	北漂一族 北京で仕事を探す芸能人, 北京に学籍がないクリエイター	× “北票” 有り。 意味は同じである。
19	电拒 電話での不採用通知	×
20	辣面 何度も面接の機会を求め歩く	×
21	裁员 リストラ	○
22	下课 クビになる	○
23	自由职业者 フリーター, 自由業者	× “自由职业” 有り
24	小时工 パート労働者	○
25	裸婚 ジミ婚	○
26	剩女 婚期を逸した女性	×
27	婚活 結婚相手を探す行動	×
28	嫁晚族 公務員との結婚を望む女性	×
29	陪拼族 ショッピングにおつきあいをする男性	×
30	光棍节 シングルの日	×
31	人造美女 整形美人	× “人造” 有り
32	北大荒 北京在住の30歳を過ぎても男性を知らない女性	×
33	花心 浮気	○
34	黄昏恋 高齢者の恋	○
35	爱情帐户 恋し愛する二人の共同の預金口座	× “帐户” 有り “帐” = “账”
36	异地婚姻 上海人とほかの地域出身者との結婚	× “异地” 有り

37	无效婚姻 婚姻届を出していない結婚	× “无效” 有り
38	急嫁族 急いで嫁になりたがる大卒者	×
39	恐丑症 醜いことをおそれる病	×
40	恐婚族 結婚が恐い人	×
41	全职先生 無職で家事一切をこなす男性	× “全职”, “全职太太” 有り
42	已婚 (单身族) 既婚の身でありながら, 独身生活を送っている人	×
43	半糖夫妻 週末婚カップル	×
44	七厘散 離婚をちらつかせ亭主関白の地位を保つ	×
45	老公寄存处 デパートにおける夫の避難所	×
46	三排外国人 3つの法を犯している外国人	×
47	山寨 コピー	○
48	傍名牌 有名ブランドまがいのコピー商品	×
49	钓鱼执法 悪質なおとり捜査	× “钓鱼” 有り
50	躲猫猫 留置場での不審死	○
51	买官 官位を買うこと	○
52	裸官 海外逃亡のための手立てを用意している幹部	○
53	跑官 官職や出世のためにかけずりまわる	○
54	楼歪歪 手抜きによる欠陥建築	
55	虚高现象 水増し	× “虚高” 有り
56	献礼工程 突貫工事で進めるプロジェクト	× “献礼” 有り
57	医托 悪徳医師と結託したブローカー	×
58	黑色经济 ヤミ経済	× “黑色” 有り
59	潜规则 暗黙の了解	○
60	摇头丸 エクスタシー (ドラッグ)	○

61	飯局 会食	○
62	血霸 血液売買のブローカー	×
63	貪内助 汚職行為を助勢する妻	×
64	黒哨 八百長審判	○
65	水貨 ニセモノ	○
66	网络成癮症 ネット中毒	× “网络” 有り
67	网上购物 ネットでの買い物	× “网上商店” 有り
68	网商 オンライン経営者	○
69	网络新贵 ネットで儲けた人	○
70	网恋 ネット恋愛	○
71	在线 オンライン	○
72	网聊 チャット	○
73	网上小说 インターネット小説	×
74	雷人 強い驚きをあらわす	×
75	拇指族 親指でのキー操作にすぐれた人	× “拇指” 有り
76	伊妹儿 Eメール	○
77	拍照手机 カメラ機能のついた携帯電話	× “拍照” 有り
78	网祭 ネット墓参	×
79	刷博 アクセスカウントの水増し	×
80	红客 中国人ハッカー	×
81	视频 動画	○
82	垃圾邮件 迷惑メール	× “垃圾” も無し
83	高清频道 ハイビジョンチャンネル	× “高清” 有り
84	彩铃 着信メロディー	○

85	三维动画 3Dのアニメーション	○
86	手机新闻 携帯新聞	× “手机” 有り
87	等离子电视 プラズマテレビ	× “等离子” 有り
88	双向收费 中国の携帯電話料金システム	× “双向” 有り
89	桑拿天 猛暑	○
90	沙尘暴 春の砂嵐	○
91	绿色食品 無公害食品	○
92	白色汚染 白い色のゴミ	○
93	绿客 スマートかつクリーンな生き方の人たち	×
94	走班族 徒歩通勤者	
95	慈善拉破 役に立たない慈善機関からの品物	× “慈善” 有り
96	蓝天计划 青空を取り戻す環境運動	×
97	返璞族 自然に戻ろうと考える若者たち	×
98	节能住宅 省エネ住宅	× “节能” 有り
99	低碳生活 二酸化炭素削減をめざす生活	× “低碳” 有り
100	三化草地 「退化」「砂漠化」「アルカリ化」した草地	×
101	绿色出行 クリーンな環境を意識しての出勤形態	× “绿色” 有り
102	过劳模 働き過ぎの模範的労働者	× “过劳” 有り
103	红眼航班 睡眠時間中に運航するフライト	× “红眼” 有り
104	卧舱式旅馆 カプセルホテル	×
105	人材租赁 人材派遣	× “人才” 有り
106	空中教室 テレビ授業	× “空中” 有り
107	仲介服务 仲介サービス	×
108	海归派 学問や技術を身につけ海外からもどった留学生や技術者	× “海归” 有り

109	电荒 電力不足	○
110	隠形経済 ヤミの経済	× “隠形” 有り
111	灰色収入 副収入	○
112	九点現象 夜9時まで営業時間をのばすこと	×
113	美丽产业 美容・化粧品産業	× “美丽” 有り
114	双赢 ウィンウィン	○
115	知情权 情報を知る権利	× “知情” 有り
116	引智 海外の頭脳を引き入れること	×
117	三高一低 エコロジー時代に逆行する企業	×
118	生探 優秀な生徒のスカウト	×
119	超前消費 過剰な消費行動	×
120	龙头 リーダーシップ	○
121	抢滩 市場に乗り込む	×
122	猎头 ヘッドハンティング	○
123	套牢股 塩漬け株	× “套牢” 有り
124	基民 ファンドに投資する人	○
125	救市 市場救済	○
126	股票家教 株について教えてくれる人	× “股票” 有り
127	财商 儲ける能力を表す指数	×
128	末富先老 社会が豊かになる前に老人の割合が増えてしまった状況	×
129	托老所 老人ホーム	○
130	421家庭 現代中国の典型的な家族構成	×
131	宅男 オタク	○
132	角色扮演 コスプレ	× “角色” 有り

133	时尚一族 いまだきの若者たち	× “时尚” 有り
134	哈日族 日本の流行が好きな人びと	×
135	麦霸 マイクを離さない人	×
136	酷 すごく	○
137	啃老族 親のすねをかじる子供	○
138	潮人 最先端の流行にめざとい人びと	×
139	动漫 アニメーション	○
140	瘦身族 ダイエットを心掛けている人	× “瘦身” 有り
141	超女 スター誕生番組で生まれたアイドル	×
142	粉丝 追っかけ	○
143	傍大款 金持ちにすり寄り利益を得ようとする女性	○
144	出境游 海外旅行	× “出境” 有り
145	和谐号 高速列車	× “和谐” 有り
146	红色资源 革命に由来する観光資源	×
147	申遗 世界遺産登録申請	×
148	世博会 万博	×
149	主题公园 テーマパーク	× “主题” 有り
150	小长假 3連休	×
151	自驾游 自家用車での旅行	○
152	排队日 マナーを守って列に並ぶ日	× “排队” 有り
153	第三地 お気に入りの場所	×
154	血拼 ショッピング	○
155	买单 お会計	○
156	泡吧 時間をつぶすこと	○

157	快餐 ファストフード	○
158	熬点 おでん	×
159	打包 お持ち帰り	○
160	小私族 流行を楽しむ人びと	×
161	贺岁片 お正月映画	○
162	谋女郎 巨匠監督の主演女優の呼び方	×
163	八挂新闻 ゴシップ報道	× “八挂” 有り
164	炒作 ブームを作る	○
165	甲型流感 新型インフルエンザ (H1N1 型)	×
166	亚健康 健康と病気の間にある半健康状態	○
167	过电 宴会中の乾杯	× “过电” 触電の意味
168	黑马 意外に能力をもっている人	○
169	刷卡 クレジット払い	○
170	丁宠家庭 子どもをもうけずにペットを飼う家庭	×
171	三哈女 創造力に富んだ女性	×
172	干物女 ひものおんな	×

上記2冊の辞書の比較結果については、以下のようにまとめられる。

『中国新語・流行語小辞典』に収められた172個の中で『現代漢語辞典（第7版）』に採用されたのは、53個、未採用が74個、語の部分採用（例：家電下乡→家電）が45個である。採用可が全体の約3分の1、語の部分採用を加えると約3分の2を占めていることになる。この点から言えることは、『中国新語・流行語小辞典』は、上記の11章に分類してまとめた項目及びその内容から見ても、当時の中国社会の世相を的確に反映した語が収録されていると判断できる。

3. 『大陸流行詞語800條』について

1993年に出版された本書は1980年代後半以降、台湾と大陸の経済交流や人的往来の拡大により、これまで台湾が中国に対して「交渉しない・談判しない・妥協しない」（不交渉，不談判，不妥協）といういわゆる「三不政策」が、1990年、李登輝総統の誕生により、民主化を進めるなか、中国との関係の見直しも進化した⁸。その結果として、兩岸の交流がますます活発になり、民間レベル

の交流—学会参加, 文化事業への参加, 経済活動の活性化により, 人々の往来が拡大の方向に向かったのである。ところが大陸と台湾は同じ中国語(大陸では“普通話”, 台湾では“国語”と名称は異なる)を使用していると言っても, 台湾では, 中国との政治体制の違いから大陸で使用される大量の新語・流行語を解せない現象が現実のものとなった。そういう状況の中で何佑安氏⁹の手によって台湾の人々の往来と貿易の促進を図るための, ハンドブック的な小冊子が編纂, 刊行されたのである。収集された800項目の中, 1980年代後半から日常的に用いられた比較的理解しやすい語は, (1) 一刀切, (2) 一风吹, (3) 一国两制, (4) 人民公社, (5) 下水, (6) 下放, (7) 小康, (8) 土包子, (9) 大团结, (10) 大锅饭, (11) 小皇帝, (12) 小报告, (13) 小集团, (14) 大男大女, (15) 牛棚, (16) 文革, (17) 文化, (18) 外流, (19) 台胞, (20) 打招呼, (21) 半边天, (22) 四个伟大, (23) 白猫黑猫, (24) 右派, 右派分子, (25) 老外, (26) 同志, (27) 老同志, (28) 老中青三结合, (29) 老三篇, (30) 向前看, (31) 向钱看, (32) 多面手, (33) 成分, 出身, (34) 抓, (35) 吹喇叭, (36) 坐班, (37) 找对象, (38) 走后门, (39) 批林批孔, (40) 赤脚医生, (41) 抓革命, 保生产, (42) 吹, (43) 拉, (44) 四人帮, (45) 官倒, (46) 官商, (47) 法盲, (48) 盲流, (49) 两面派, (50) 东郭先生, (51) 武大郎开店, (52) 风, (53) 红太阳, (54) 红卫兵, (55) 政治运动, (56) 南巡讲话, (57) 思想改造, (58) 计划生育, (59) 倒爷, (60) 个体户, (61) 纸老虎, (62) 臭老九, (63) 高干, 高干子弟, (64) 特权, 特权阶层, (65) 救世主, (66) 接班人, (67) 第三者, (68) 研究研究, (69) 贫下中农, (70) 单位, (71) 过热, (72) 万金油, (73) 普通話, (74) 无产阶级, (75) 帽子, (76) 阶级斗争, (77) 稿, (78) 干部, (79) 雷锋, (80) 爱人, (81) 解放, (82) 极右, (83) 极左, (84) 新时期, (85) 新动向, (86) 解放思想, (87) 极左思潮, (88) 愚公移山, (89) 意思意思, (90) 对象, (91) 搞帽子, (92) 热潮, (93) 墨水, (94) 调整, (95) 整人, (96) 整风, (97) 头头, (98) 独生子女, (99) 简化字, (100) 离休, (101) 临时工の計101語である。これらの流行語彙は以下のように整理できる。

- 1) 時代の経過とともに使用頻度が低くなったもの: (6) 下放, (11) 小皇帝, (13) 小集团, (14) 大男大女, (19) 台胞, (38) 走后门, (58) 计划生育, (60) 个体户, (98) 独生子女
- 2) 現在でも使用され続けられている語: (1) 一刀切, (25) 老外, (10) 大锅饭, (13) 小集团, (45) 官倒, (59) 倒爷
- 3) 死語同然となった語(文化大革命中の政治用語が数多い): (4) 人民公社, (15) 牛棚, (16) 文革, (22) 四个伟大, (24) 右派, 右派分子, (44) 四人帮, (54) 红卫兵, (39) 批林批孔, (55) 政治运动, (62) 臭老九, (69) 贫下中农, (74) 无产阶级, (76) 阶级斗争, (82) 极右, (83) 极左, (95) 整人, (96) 整风
- 4) 『現代漢語詞典(第7版)』(2016)に収録されている語: (8) 土包子, (10) 大锅饭, (11) 小皇帝, (20) 打招呼, (25) 老外, (31) 向钱看, (32) 多面手, (33) 成分, 出身, (36) 坐班, (38) 走后门, (66) 接班人, (67) 第三者, (70) 单位, (80) 爱人, (100) 离休 これらは, 当時流行語だった語がすでに共通語として定着していることを意味している。

このように見て来ると, 流行語の移り変わりを通して, 中国社会における変化の一側面を伺い知ることができる。この小冊子は, 当時の台湾や香港の人々にとっては, 大陸との観光事業, 貿易促進事業などにおいて利用価値の高い, 有用なものだったに違いない。一方, 広東語から派生してすでに大陸の社会全体に定着している“打的”, “炒鱿鱼”, “买单”などの流行語が同書に収録されていないのは, 方言の影響を受けた語ということで採用しなかったのか, その他の理由があるのかは不明である。

4. おわりに

その時々には新語が生まれ、その中から一部流行語として民間で広まり、多くの人たちに使用される。一部の若者だけに通じるものではなく、老若男女の間でもその語が日常生活の中に溶け込み、公共の場でも使用されれば、流行語として定着する。「新語・流行語」関連の出版が数年の1回だけの発行では時代遅れの感は否めない。せめてガイドブック的な新語の常用語だけを集めた簡明な辞書や範囲をせばめた、分かりやすい辞書の出版があると気軽に利用して、コミュニケーションの場で活用することが可能となる。そのことは、言語の表現力の向上にもつながると思われる。

最近では、趙蔚青(2020)、趙蔚青(2021)などに見られるように、年末に雑誌やメディアなどでも新語のトップテン、ネット上の流行語のトップテンなども発表されている¹⁰。

そのため、最近、中国でも問題になっている流行語“躺平”(寝そべり状態、何も努力しないこと)、“元宇宙”(メタバース)、“疫苗接种”(ワクチン接種)、“新冠病毒”(新型コロナウイルス)などは辞書には未収録であったとしても、マスコミなどの報道を通して、日本でもその新語・流行語の意味と背景を知り得ることができる。

ネット社会の現在、中国においては今後ますますネット用語が増え続けることは容易に予想される。私たちが共通語だと思っていた語“坐班”、“一刀切”、“超级市场(超市)”、“收音机”などの語が1980年代に新語として生まれている。これらの常用語から発生当時の社会や人々の生活などを調べることも意義のあるテーマだと思う。

大学における中国語教育の中で「流行語」をどのように扱い、どの範囲まで教えるべきかなどについては、今後、新語・流行語に関する論文の発表が広がりを見せている現在、「中国語教育学会」などでも研究発表が続出すると思われる。新語・流行語の分類についても注1に示した張黎(2017)の視点(「流行語」と「新語」はもともと二つの概念があるが、ほとんど同時期に言及されるので、同一概念とされているが実際はそうではない。流行語と新語の関連性について図で示し、その両者には共通部分があると指摘している)は興味深いものがある。張氏が指摘している新語・流行語の共通部分とそうでない部分について検討したい。併せて大陸と台湾の語彙の差異について、新語・流行語の相違点、更には政治体制の異なる大陸と台湾の法律用語についても今後の語彙研究の中に取り入れ、研究を進めたい。

注

- 1 現代中国語の規範化を編集目的とした中心的な辞書である。1978年に第1版が発刊され、その後、第2版(1983)、第3版(1996)、第4版(2002)、第5版(2005)、第6版(2012)と修訂を重ねながら、現在、第7版(2016)が刊行されている。
- 2 張黎(2017)は、新語と流行語の関連性について、「新語」と「流行語」を二つの概念としてとらえるが、両者には共通部分があると指摘している。
- 3 北京語言学院(北京語言大学の前身)は、対外中国語教育で名高い教育機関であり、大学出版社からは現代中国語に関する出版物が数多い。
- 4 植松希久磨(2017)は、「『現代漢語詞典』は、1978年の初版本が出版されて以来、現代中国語の規範化に重要な役割を果たしており、第6版から第7版の新語は約400語を取録している。」と述べている。
- 5 元中国社会科学院語言研究所所長(1994年～1998年)
- 6 “语言中不断出现新词语,此书搜罗宏富,诠释简明,不冗不繁,颇切实用。”

(言語には絶えず新しい語が登場しており、この書物は語の収集、引用が豊富で、解釈が簡潔であり、冗長でもなく、極めて実用に適している。)

周祖谟：元北京大学教授（1914年～1995年）

- 7 () の中は選定項目の語数を表している。
- 8 若林正丈・家永真幸『台湾研究入門』(2020) 210ページ。
- 9 何佑安氏は本書のプロフィールによると、大陸の作家であり、歴史学者である。10数年前から、精力的に執筆活動、小説の英訳、日本語訳に取り組んでいると記されている。
- 10 趙蔚青氏は『咬文嚼字』や「国家言語資源モニター研究センター」が公表した年度ごとの流行語に関する論文を発表している。データから得られた流行語についての説明も詳しく紹介されている。

参考文献

- 1) 中国社会科学院语言研究所編『現代漢語詞典（第7版）』商務印書館 2016年。
- 2) 金丸邦三監修・吳佩編著『中国語新語辞典（三訂版）』同学社 2000年。
- 3) 商務印書館辞書研究中心編『新华新語詞典 2003年版』商務印書館 2003年。
- 4) 北京・商務印書館、日本小学館共同編集『中日辞典（第3版）』小学館 2016年。
- 5) 于根元主编『汉语新词语』北京语言学院出版社 1991年。
- 6) 于根元主编『汉语新词语』北京语言学院出版社 1992年。
- 7) 刘庆隆等編『汉语新詞詞典』上海辞書出版社 1986年。
- 8) 李行建主編『新詞新語詞典』語文出版社 1989年。
- 9) 张寿康 主編『常用新詞語詞典』經濟日報出版社 1991年。
- 10) 北京市語言學會編『新詞語詞典』人民郵電出版社 1993年。
- 11) 郭熙主編『汉语新語詞典』江蘇教育出版社 1993年。
- 12) 張一帆・小島朋之『中国新語流行語辞典』日中通信社 1995年。
- 13) 陳岩編『市場經濟下の最新中国新語辞典』北九州中国書店 1995年。
- 14) 欧阳因編『中国流行新词语』中国人民大学出版社 2000年。
- 15) 宋子然主編『汉语新詞新語年編（1997-2000）』四川人民出版社 2002年。
- 16) 郭雅坤・内藤達志『中国新語・流行語小辞典』明石書店 2010年。
- 17) 何佑安『大陸流行詞語800條』遠流出版公司 1993年。
- 18) 若林正丈・家永真幸『台湾研究入門』東京大学出版会 2020年 210ページ。
- 19) 瀬戸口勲「中国語の語彙について——北京語との比較を中心に」『東京国際大学論叢——人文・社会学研究』8号 2023年。
- 20) 張黎「中国語における流行語の意味的バリエーションについて」『鹿児島国際大学大学院学術論集』2017年11月。
- 21) 植松希久麿「中国語における新語の研究——『現代漢語詞典第7版』の語彙を中心として」『東洋研究』編集委員会編』大東文化大学東洋研究所 2017年。
- 22) 趙蔚青「2020年中国の新語・流行語」『日中語彙研究第10号』愛知大学中日大辞典編纂所 2021年。
- 23) 趙蔚青「2021年中国の新語・流行語」『日中語彙研究第11号』愛知大学中日大辞典編纂所 2022年。
- 24) ピラールイリヤス・姜雪寧「流行語から見る中国社会の表現の変化」『長野大学紀要第33巻（第2・3号併号）』2012年。